

あおば

No.89

令和6年3月14日発行
青葉中学校区青少年健全育成推進会事務局
札幌市立青葉中学校 011-891-4351

「ご近所付き合いが身近な防犯対策」

青葉中学校区青少年健全育成推進会 会長 唐原 元嗣

早春の候、新年早々に能登半島地震に見舞われた方々にお見舞い申し上げます。地域の皆様におかれましては児童の見守り、通学路周辺の除雪等にご協力を頂き心より感謝申し上げます。日頃からのご近所付き合いといえは、あいさつや立ち話ですが、最近されていますか？犯罪者が一番嫌うのが「地域の目」。犯罪を諦めた理由の上位に「話しかけられたから」というデータがあります。また地域住民の連帯感を見るポイントとして指定日以外にゴミが出ていないかどうかも挙げられます。見守り活動はできる範囲で構いません。ご近所付き合いを大切に、犯罪に強い地域になるよう、引き続きご協力お願い致します。

新学期に伴い、改めてご協力頂くこともあろうかと存じますが、今後とも変わらないご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。※参考出典:「住まいる防犯110番」(警察庁)

「児童・生徒間の新たな交流の1年」 新札幌わかば小学校 教頭 道佛 智志

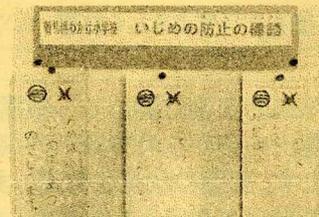
義務教育学校開設に向けて今年度は児童・生徒間の交流に取り組みました。一つ目の取組は、「小中合同の挨拶運動」です。この取組によって、児童と生徒が分け隔てなく声を掛け合えるようになり、青葉中校区のみんなが元気で笑顔になることを目指して、生徒会と児童会が企画しました。初めに、生徒会と児童会の自己紹介を兼ねた顔合わせをオンラインで行いました。昨年や一昨年に小学校のたてわり活動で交流していたこともあり、児童生徒ともに安心して活動をスタートすることができていました。実際の活動では、中学校と小学校の玄関で、中学校の生徒と小学校の児童がペアになって、登校してくる人たちにどんどん挨拶をしました。最初は小学生が中学生に声を掛けるのを緊張していたようにも見えましたが、中学生が積極的に挨拶していくのに刺激され、小学生も大きな声で挨拶するようになっていきました。



【小中合同で行った挨拶運動】

二つ目の取組は「わかば・青葉に広めよう『いじめはダメぜったい』」です。中学校の環境委員会で、いじめ根絶の決意と標語を作って玄関に掲示する活動を行っていましたが、小学校でも同じ時期に同じ活動を実施し、小中合同の取組とすることにしました。毎日、廊下を通る際に一人一人の標語が目に入ることになり、いじめ防止が意識されたのと同時に、一人一人のよさを認め合うことにもつながっていきました。

義務教育学校開設に向けて、まだまだ手探りの状態ですが、一步を踏み出した1年となりました。次年度も今年度の課題をもとに子どもたちの声を取り入れながら活動を進化させていきたいと考えています。今後とも保護者・地域の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



【小学校でのいじめ防止の標語】

「笑顔の広がる学校」

共栄小学校 教頭 村雲 聖治

令和5年度学校長から示された重点目標は、「笑顔の広がる学校」(児童・教職員・保護者の笑顔)でした。その重点目標達成のため、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じることができ、一期一会のつながりを大切にすること、教職員の持ち味を存分に発揮して、組織で育て授業で育て、日常の積み重ねで育て、教育活動を進めて参りました。



さて、令和5年12月、子どもたちや教職員の笑顔があふれる「共栄スマイルラリー」という児童活動の行事が4年ぶりに開催されました。これは、各教室や特別教室のどこかにその学級や特別教室にまつわるクイズが掲示してあり、1年生から6年生までいる縦割りグループで全校を探検し、クイズを見つけてその回答をグループみんなで考えるという活動です。また、校内には、クイズ以外にもいくつかのキーワードが隠されています。このキーワードを組み合わせると共栄小学校に関わりのある言葉が浮かび上がります。この活動の最後には全校児童が体育館に集まり、クイズの答え合わせとキーワードの発表が行われました。



このように全校一斉に縦割りグループで動くのはコロナ禍以来初めてでしたが、6年生のリーダーシップのもと、迷子になる子もおらず、全校児童が笑顔いっぱいこの活動を楽しんでいました。

今後もこの「共栄スマイルラリー」を共栄小学校の伝統行事としていきます。

「備えあれば憂いなし」

事務局 堀 真一(青葉中学校 教頭)

考えたくはありませんが、学校が荒れるとみんなが暗い気持ちになります。学校本来のやるべき仕事をそっこのけにして余計なエネルギーを使わなければならなくなります。荒れた原因は何なのか?どうすれば再び平和な学校生活が訪れるか?を考えて、教師・生徒・地域・家庭が一体となり立て直しを図らなければなりません。平和のままであればやる必要のない莫大(ばくだい)な時間とエネルギーが必要です。そうなった原因は様々ですが、我々大人に手抜きがなかったでしょうか?大きな手抜きではなく、うっかりすると見逃してしまいがちな小さな手抜きが塵も積もって山となり噴火したのではないのでしょうか?

3月15日は卒業式です。本校の卒業式は、例年とても感動的な儀式になります。しかし、荒れた学校の卒業式でも多くの生徒が涙を流します。先生や保護者に迷惑をかけた生徒もお世話になった先生と握手をして、保護者に見守られながら巣立っていきます。どんな生徒でも、卒業式で見せる素直な気持ちや感謝の心を持っているものなのです。それを1年間通じて毎日持ち続けられるような生徒を育て上げるためには、どうすればいいのかを考えるべきです。

ただ、どうしても学校が平和な時には面倒くさいと思ってしまうものです。そして、ついつい我々大人が手抜きをしようものなのです。その手抜きが積み積み荒れた学校を作り上げていくことになっていきます。このことを思い返し、学校(家庭)が平和なうちにちょっとしたミスや手抜きがないかどうかのチェックを行っておくべきです。平和な時ほど学校と家庭の連携が大切なのではないでしょうか。

末筆になりますが、本年度も青葉中学校区健全育成推進会の活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

学年末の安全に関して～融雪期の注意喚起～

- 雪山の陰からの車道への飛び出しやスリップした車両との接触、除排雪作業中の車両に近付くことは危険です。周囲の状況を確認しましょう。
- 気温の上昇による屋根からの落氷雪に十分注意を払うとともに、雪捨て場や道路わきの雪山等では遊ばないこと。公園の遊具などの根元に大きな雪洞ができていることがあります。